

大学院大学での生活

このパンフレットは、博士課程への進学を検討中のみなさんに、その進学先を選択する上での参考としていただく目的で作成しています。おそらく、博士課程へ進学するときにはまず考えるのは、どのようなテーマで研究を行うかということでしょう。分子科学研究所で行われている研究はどれも一線級であるとの評価を受けています。その内容については後のページの各スタッフの研究紹介の欄をご覧ください。ここではまず、大学院学生の生活を紹介します。

総合研究大学院大学分子科学研究所キャンパス(分子研キャンパス)には、構造分子科学、機能分子科学の2専攻があります。主として修士課程を修了した全国および海外の学生が約30名在籍し、博士号取得を目指し日々研究に励んでいます。

分子科学研究所での学生生活でなによりも特筆すべきなのは、その整備された環境でしょう。博士課程のみの大学院大学ということで一般の大学に比べ学生が少なく、少々寂しく感じるときもありますが、大きな一人当たりのユーティリティ、豊富な研究機器・設備はまさに研究所ならではの恵まれた環境で本質的な研究に没頭できます。

セミナー風景

研究室ごとのセミナーにとどまらず、所内外にまたがった活発な研究交流が行われている



さらに、化学の枠を超えて生物、物理など幅広い分野へと広がり続ける分子科学にたずさわる各分野との研究交流がなされています。研究所内における各研究部門のオープンセミナー、内外からの講演者を招く分子研コロキウム・分子研フォーラム、さらに岡崎コンファレンスといった討論会によって、自分の専門分野のみならず、幅広い知見を得る機会がふんだんにあります。スタッフの流動性も高く、パワフルな若い研究者が多いことも特徴の一つです。

国内にとどまらず、外国との研究交流も盛んです。毎年数十名の外国人研究者が訪れる所内は、常に国際色豊かです。さまざまな国の研究者と接することにより、専門的なことだけでなく、科学全般について、あるいはその他多くのことを学ぶことが出来るでしょう。

研究以外の生活については、研究所内や近郊の各種サークルに参加したり、所内のテニスコートで汗を流したり、それぞれに有意義なオフタイムを過ごしています。研究所内のスポーツなどのイベントや、東岡崎周辺の飲み屋でのあつい科学談義も楽しいものです。研究所周辺は閑静な住宅街で、すこし足をのばせば、乙川やそのほとりに佇む岡崎城ものぞめる恵まれた環境です。岡崎市は海へも山へも近く、また名古屋へも電車で30分と、自然派にも都会派にたいへん便利な位置にあります。



情報図書館
豊富な蔵書と個室自習室など整備された環境

食堂サンテリア



総研大岡崎地区のサッカーチーム「ラジカルズ」
機構内にはほかにバドミントン同好会、笛の会などの
サークルがある



授業風景
毎週行われる講義と、その他集中講義、湘南レクチャー
(総研大本部) などがある

